

第1回「第2期磯子区地域福祉保健計画」策定委員会議事録

開催日時	平成21年10月28日(水)18時30分から20時30分まで
開催場所	磯子区役所7階会議室
出席者	策定委員：別添1のとおり(小田嶋 悟委員 欠席) 事務局：別添2のとおり、傍聴人：なし 関係者：新杉田地域ケアプラザ岸本コーディネーター・根岸地域ケアプラザ長谷川コーディネーター・都市経営局三上政策課長・都市経営局政策課小林担当係長・岩澤副区長・佐藤区政推進課長
概要	1 委員委嘱及び正副委員長の選任 委員長に磯子区社会福祉協議会副会長の吉田修氏を選出し、副委員長には磯子区連合町内会長会副会長の鈴木伊三雄氏が指名された。 2 議事 (1) 資料1から資料6を事務局より説明。 (2) 資料7を事務局より説明。 桜井委員：縦割り感をなくすという提案の趣旨に賛成だが、しかし、具体化は難しいだろう。区と社協の申請書類を一本化できるのか。我々は報告書類作りでとても苦勞をしている。 運営企画係長：確かに皆さまの満足がいく水準までは難しいと思う。しかし、少しでも簡素化したいと考えており、そのひとつの方策が「スイッチONの推進組織を地区社協へ」というひとつの案である。 岡委員：この3年間、汐見台のスイッチON磯子の取組は地域に軸足が無いまま進められてきた。予算がくるから無理に事業を行っていた。汐見台のスイッチON磯子推進委員会の代表を自治会連合会の会長である私が務めることとなり、防災防犯委員会など新しい体制を作る予定だ。新しい体制は汐見台の場合は地区社協とはならない。それで良いのか。 運営企画係長：第1期の時のように、すべての地区に同じ組織をつくるという考え方は持っていないので、地区の実情に合わせて進めたい。ただ、現状をみると大半の地区は地区社協を推進組織とするのが好ましいのでは、と考えて資料を作成している。 大平委員：洋光台のスイッチON磯子の推進委員は11人いる。新しいことをやろうと一生懸命考えてきた。支えあい事業の延長でお祭りを始めた。地区社協のみではできず、連合自治町内会やケアプラザといっしょに実施をし、子どもたちから高齢者まで500人が参加している。スイッチON磯子推進委員会が出来た分、窓口が増えた。スイッチON磯子の取り組みは連合自治町内会の協力なしにはできない。補助金に関しては組織ごとに申請するのではなく、申請の手続きの簡素化をしてほしい。 運営企画係長：繰り返しになるが、地区の実情を踏まえて組織の簡素化を検討する中で、補助金についても検討していきたい。 (3) 資料8を事務局より説明。 吉田委員長：区の担当者が会議の開催方法について説明に来るとのことだが、具体的にはどのようなアドバイスをするのか。 運営企画係長：例えばとても広い地区連合では地区連合を3つに分けて策定会議を開くなど策定会議の持ち方を地域の方、区社協の方と共に考えたりしている。

吉田委員長：説明資料 8 によると、今年度は振り返りの期間になっているのに、4 月に素案が出る予定となっている。3 月までの各地区策定会議の話し合いの内容を素案につなげると考えていいのか。

福祉保健課長：4 月に出したいと考えている素案は、主に区計画の素案になると考えている。よって、来年 4 月までに各地区で計画を作っていただく必要はないが、来年の 9 月に向けて今から良く話し合っ、整理していただきたいと思っている。

大平委員：策定会議の補助金の対象となる会議はどこまでか。

福祉保健課長：来年（平成 22 年）の 3 月 31 日までの会議が対象となる。

(4) 資料 9 を事務局より説明。

(5) その他

関本委員から「磯子地域活動フォーラム 2009」への参加依頼があった。

上杉委員から「磯子アベニューの改修について、障害者の声をよく聞いてほしい」という意見が出された。

3 グループ討議の内容

A：次のような意見が出された。

- ・増加する一人親家庭では子育ての知恵を得る機会が少ないので身近な町内会で子育て支援の取組が出来ると良い。
- ・支えあい事業とスイッチ ON 磯子とケア連絡会が私の頭の中で混乱している。お互いが関連しあって発展していくことを期待したい。
- ・高齢者中心のマンションと若い子育て中の人たちが多いマンションがはっきり分かれていて双方の交流が無い。どう融合させるかが課題だ。
- ・高台に住む人と平地に住む人と事業への参加の状況が違うので工夫をした。
- ・介護予防の点などは医師のアドバイスも必要だ。

B：自治会長からは地域活動の基盤は自治会町内会であること、民生児童委員からはスイッチ ON 磯子の活動をもっと自治会町内会長が理解することが必要、市民活動団体からは商店街の活動や自治会町内会の活動と市民活動団体との橋渡しをしてスイッチ ON 磯子の活動に関わる人の裾野が広がるようにしたい、ケアプラザ代表からは、福祉サービスの窓口が多くなって混乱を招いているなどの意見が出された。

C：スイッチ ON 磯子の各地区の取組が紹介された。高齢者を対象とした支えあい活動や隣り近所のつながりをつくる取組、給食活動を通して一人暮らし高齢者の安否確認をする活動や支えあいチームの訪問活動など高齢者を対象にした取組が報告されたが、中学生を対象とした青少年との交流事業の難しさも報告された。行政が個人情報保護しようとするために、地域が困っているという意見も出されたが、地域の個人情報は地域の取組のなかで集めることが必要だという取組の実例も報告された。

・まとめ（斎藤担当部長）

活動を踏まえた貴重な発言を多数いただいた。これらのご意見を第 2 期計画策定につなげていきたい。

『第 2 期磯子区地域福祉保健計画策定委員会』名簿

平成 21 年 10 月 28 日現在

		所 属	氏名 (敬称略)
各種 団体 代表 (氏名 五十 音順)	1	磯子区社会福祉協議会当事者団体部会 部会長	上杉 惇
	2	磯子区内障害者施設 代表 (※1)	小田嶋 悟
	3	磯子区民生委員児童委員協議会 副会長	小宮山 滋 (兼)
	4	磯子区体育指導委員連絡協議会 副会長	佐藤 孝明
	5	磯子区連合町内会長会 副会長	鈴木 伊三雄
	6	磯子区医師会 福祉医療事業部会長	瀧本 篤
	7	磯子区保健活動推進員会 副会長	田辺 実 (兼)
	8	磯子区内ボランティア・市民活動関係団体 代表 (※2)	時任 和子
	9	磯子区青少年指導員協議会 副会長	福士 市子
	10	磯子区社会福祉協議会 副会長	吉田 修
地区 代表	11	根岸地区 代表	須川 さよ子
	12	滝頭地区 代表	古知屋 多恵子
	13	岡村地区 代表	早乙女 幸男
	14	磯子地区 代表	平戸 栄次
	15	汐見台地区 代表	岡 道子
	16	屏風ヶ浦地区 代表	小宮山 滋 (兼)
	17	杉田地区 代表	櫻井 重人
	18	上笹下連合地区 代表	村岡 宗夫
	19	洋光台地区 代表	大平 清子
	20	上笹下地区 代表	田辺 実 (兼)
行政 等	21	磯子区内地域ケアプラザ 代表 (※3)	水越 尚登
	22	磯子区地域振興課長	関本 利恵子
	23	磯子福祉保健センター長	宇賀神 憲治

※1 いそご地域活動ホームいぶき施設長

※2 NPO 法人夢・コミュニティネットワーク代表 (磯子区 NPO 連絡会事務局長)

※3 滝頭地域ケアプラザ所長

『第2期磯子区地域福祉保健計画策定委員会』事務局名簿

平成21年10月28日現在

所 属		氏 名
1	磯子福祉保健センター 担当部長	斉藤 林福
2	福祉保健課長	戸塚 徳雄
3	健康づくり係長	菅野 美穂
4	運営企画係長	中村 仁
5	運営企画係職員	伊東 秀明
6	同上	近藤 玄樹
7	同上	伊東 ゆかり
8	同上	柴原 あづみ
9	高齢・障害支援課長	嘉代 哲也
10	こども家庭支援課長	佐藤 眞理代
11	磯子区総務部地域振興課 地域力推進担当課長	平石 浩二
12	地域力推進担当係長	森田 純
13	地域力推進担当職員	田中 さゆり
14	磯子区総務部総務課 総務課長	金子 裕
15	磯子区社会福祉協議会 事務局長	内藤 博昭
16	事務局次長	中島 美樹子
17	職員	並木 史江
18	職員	大久保 敦子